

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で利用者本位の理念と目標を作成し、事務所と玄関に掲げサービスの実践に努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえて職員間で掲げた現在の理念は、全職員で心地よく共有されている。日々のカンファレンスでの振り返りや、年度末の職員会議で話し合い、目標を立て実践に繋げている。それを事業計画に反映させ、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けられるサービスの提供に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に気軽に参加してもらえる行事を毎月開催し、観覧板でお知らせしている。地域の方が毎月カラオケに来てくださっている。地域の夏祭りや小学生との交流会に参加している。地域の方から、野菜をいただいたり、庵の畑の世話に協力していただいているなど、日常から交流がある。	事業所は地域の集落とは少し離れた場所に位置しているため、地域の方々に知っていただき、気軽に来所してもらえるよう毎月発行している地域住民回覧用のチラシ「笑顔」を、広範囲の地域の町内会やコミュニティーセンターを通じ200枚位回覧してもらっている。毎月の地域交流行事の案内や、健康一口メモ等を掲載することで、笹団子作りやカラオケ大会、喫茶等好評であり、少しずつではあるが地域住民の来所に繋がっている。また、コミュニティーセンターを通じ、小学生との交流も始まっている。地域での行事や祭りには、利用者と共に参加し、交流を深めるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に発行している回覧板で認知症やグループホームの説明・情報を載せて地域に発信している。キャラバンメイトとして、市や他法人と共に認知症サポーター養成講座を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はほぼ2カ月に1回開催し、利用者状況・職員体制・サービスの実際を報告したり、避難訓練を見学していただき、ご意見をサービス向上に生かしている。議事録は職員全員で共有し、ご家族にも郵送し、ご意見等をお聞きしている。近隣のグループホームでお互いの運営推進会議に出席する事で、他施設の状況を知り、自施設のサービスの向上につなげる努力をしている。	運営推進会議は、利用者、家族の代表、民生委員、他のグループホームの管理者等から参加してもらい、活発な意見交換がなされている。また、年間を通して大きな行事(運動会、防災訓練等)と併せて会議を計画し、職員の活動状況等を直接見てもらい具体的な意見をもらうようにしている。会議で出された意見、要望は全職員間で共有し、サービス向上に活かせるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に介護保険課と包括支援センターの職員に出席してもらっている。避難訓練の様子も見学していただいている。市が開催する「すこやかともしび祭り」に参加している。	市の担当者、包括支援センター職員からは隔月の運営推進会議に参加してもらっている。事業所の実状を見てもらい、知ってもらうことで日頃の協力関係が築けるよう取り組んでいる。また、行政主催の会議や研修会には積極的に参加し、他の参加者との情報交換を深める機会となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は認知症とご利用者の気持ちの理解に努め、見守りながら、抑制することなく援助を行っている。定期的に身体拘束や不適切なケアについて勉強会を行っており、利用者の安全と安心面に配慮した取り組みを行っている。	身体拘束をしないケアと、利用者の安全、安心面に配慮した取り組みについては勉強会等で職員の意思統一が図られている。玄関に施錠はされていないが、戸を開けると鈴が鳴るようになっている。利用者の半数位の方のベットサイドに、家族の了解を得て転倒防止や見守りのために赤外線センサーが取り付けられている。今までの経過の中でこれによって迅速な対応ができて大事に至らなかった事例があり、今後も見守りの重視を大切に、して事故防止に取り組む意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は認知症とご利用者の気持ちの理解に努め、虐待について定期的に勉強会を行っている。 閉鎖的にならないように日常から外部の方を受け入れ、市の介護相談員制度も利用している。	管理者は職員の利用者への「慣れ合い」や「不適切な行為」を未然に防ぐために「気配り、目配り、心配り」の喚起を定期的に促している。虐待防止の研修会については、職員は段階的に受講できる機会が与えられている。また、職員の中には他の講演会等に自主的に参加しており、自ら志気を高めている職員も見受けられた。	事業所で行う勉強会の年間計画は作成されており、ほぼ実施されている。実施記録には資料は綴られているが、参加者の氏名や詳しい内容、質疑の内容、欠席者への伝達方法等が明確になっていない現状が窺えた。今後は職員全体のレベルアップに繋がる実施記録になるような工夫が望まれる。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護の勉強会を計画し、定期的に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明する内容をマニュアル化しており、分かりやすいように説明している。契約時に不安や要望をお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を受け入れ、直接ご利用者の気持ちなどを直接聞いてもらい運営に活かしたり、御家族にも内容をお伝えしている。ご家族が意見を言いやすいように、運営推進会議や面会時に個別にお聴きしている。	運営推進会議には利用者、家族から輪番で出席してもらって意見等をいただいている。また、日常的に利用者と接触する際や、面会に訪れた家族との対話を通して、意見、要望の収集にも努めている。実態としては、積極的な意見、不満、要望が出されていない現状がある。今後、利用者、家族アンケートを外部評価受審時だけでなく、定期的実施したいと考えている。市の介護相談員制度も継続して活用していく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は会議や朝のカンファレンスで話し合い、ケアや業務に反映させている。管理者は職員個々に考えを聞く機会を作り、職員が意見や提案を出しやすいよう努めている。	朝のカンファレンス等で出された職員からの意見や提案については、職員会議で必要な検討を行い、サービスの向上に反映させるよう努めている。管理者は、職員との日常的な関わりの中で個々の職員の気づきやアイデア等を大切に評価するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの係や担当を決めて実践したり、毎年度始めに自己の目標を立て、年2回達成度を自己評価しながら、やりがいを持って働いている。上司は職員の状況を把握する努力をしている。残業にならない様に職員同士業務を助け合って仕事をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合わせて研修を企画し、知識や技術の向上に努めている。他職員の研修報告にも目を通してしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することによって、同業者と交流する事が出来る。地域のグループホーム間でお互いの行事に参加し交流を深めている。近隣の6グループホームで毎年運動会を行っている。また、6グループホーム職員間でも懇親会を行い、交流を図っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式シートを活用し、本人の思いや生活歴をお聴きして、不安感の軽減に努めている。得た情報は職員間で共有し、同じ対応が出来るよう努めている。あらたに気づいたことがあれば、カンファレンスで話し合い、対応に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み段階で、施設内を見学していただき、概要や料金等の説明をしている。入居時に要望や不安な事などをお聴きしている。面会時に、お気づきの点やご要望をお聴きしている。行事に気軽に参加していただけるよう声かけをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望をケアプランに取り入れている。必要に応じ、医師・看護師・リハビリ職・管理栄養士に相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・家事を一緒に行い、一緒に生活している者同士として役割を担ってもらっている。畑仕事や草取りを一緒に行い、収穫の喜びを共有したり、花壇の花を観賞し楽しんでいただいている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を呼びかけたり、一緒に昼食を食べていただいたり、ご利用者と電話で話してもらったりして、疎遠にならないようにしている。ご家族との外出も提案している。担当者会議に参加してもらい、ケアプランについて一緒に考えている。毎月「晴遊庵だより」で今月のご様子をお伝えし、日常の写真をお送りしている。	家族には、毎月「晴遊庵だより」を発行し、写真入りの行事の報告や今後の予定を知らせると共に、個々の利用者の近況報告を書き添えて送付している。また、家族との面会時には職員も一緒に会話に加わり、本人の日常生活の様子を伝えたり、家族からの要望を伺い和やかに楽しいひと時となるよう努めている。晴遊庵を利用することで、本人と家族の絆がより深まっていくよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人友人が気楽に来庵できるような雰囲気作りを心掛け、面会時には、居室でゆっくり過ごしていただいている。利用者がなじみの場所に行きたい時には、御家族と連絡を取りながら、出来る限り対応している。	入居時に本人のこれまでの人間関係や馴染みの場所等を聞き取って把握しているが、入居後も日々の会話の中や親戚や知人との面会時等に、新しい情報が得られることもあり、そのことを職員間で共有し、利用者一人ひとりが行ってみたい場所等があれば家族の了解を得て一緒に出向いたり、電話や手紙等でも連絡を取り合う支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志が楽しく会話できるよう、また、落ち着いて過ごせるようにその時のご利用者の表情や行動に気を配りながら、必要時には職員が介入し、良好な関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の病院や施設に移られても、面会に行ったり、散歩に来てもらったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族・ご本人にサービス担当者会議に参加していただき、意向をお聴きしている。意向の表出が困難な方は、ご家族から情報収集したり、日々の関わりから把握するよう努めている。得た情報は職員間で共有し、個人に合わせた対応に努めている。	入居時のアセスメントやセンター方式の一部を活用し、本人の思いや暮らし方の希望、意向の把握を行うようにしている。また、介護計画更新時のサービス担当者会議の際に、本人、家族の現在の思いを再確認し、一人ひとりの利用者に合わせて暮らしができるよう職員間で情報を共有して対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報を集めたり、ご本人の日頃の会話から把握するよう努め、趣味や嗜好などの詳細な面まで利用者に合わせた対応を心掛けている。	利用者一人ひとりが、入居前に地域の中でどのように暮らしていたのかやサービス利用の経過等を家族や担当ケアマネージャーから聴取すると共に、趣味や嗜好等についても詳細に把握することで、生活のリズムが大きく変わることのないよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックとともに、表情や言動からもその日の心身の状態を伺い知るように努め、記録に残し、申し送って職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング・担当者会議を行い、課題やケアについて話し合っている。ご利用者ご家族にも担当者会議に参加していただき、ケアプランに反映している。状態に応じて、他職種の意見を参考にしている。利用者の言葉から、その時の状況がわかるようにしている。	アセスメントはセンター方式の一部を使用し、モニタリングは3ヶ月に1回、見直しは6ヶ月に1回行なっている。家族に更新時期が近づく事をお知らせしておき、家族の都合のよい訪問日に合わせて担当者会議を利用者・家族・担当職員・計画策定者が参加し、意向や思いをくみとりプランに反映している。また隣接する協力病院のリハビリ担当者からのアドバイスを、管理栄養士からの助言も大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践やご様子を分かりやすく簡潔に記録し、ご利用者の言葉もそのまま記録している。連絡ノートや看護師連絡帳を活用して職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の状態やご家族の状況の把握に努め、その時必要なサービスを話し合って提供している。併設施設のリハビリスタッフや栄養士に相談しアドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流行事で地域の方と交流したり、カラオケボランティアや幼稚園児の訪問、畑作業の協力、スーパーや公共施設への外出など、日常から地域との関わりがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院に職員が付き添って受診し、受診結果をご家族に報告している。ご利用者の身体状況に変化があった時は、すぐ看護師に報告し相談したり、受診したりしている。御家族の協力を得て、以前のかかりつけ病院に受診している方もいる。	1名の方は今までのかかりつけ医の受診を継続している。他は隣接する同法人協力病院に職員が付き添うかたちで受診されている。冬場は雪が多い地域なので、近い距離ながら担当医師が往診に来るといった医療法人の事業所という恵まれた関係が保たれ、その都度の適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は毎日来庵し、ご利用者の心身状態を把握している。ご利用者の様子で気付いた事があれば、すぐ併設病院の看護師に状態を報告し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した時は、安心して治療できるように病院関係者に情報提供している。病状をお聴きして、面会に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に退所基準についてお伝えしている。ご家族の面会時に近況をお伝えし、ご利用者の状態を把握してもらえるように努めている。	契約時、「重度化した場合における対応にかかる指針」が記載された「健康管理」で説明しているが、「終末について」の話し合いは家族の方とは、現在のところ具体的には行なわれていない。管理者は常に医療法人のグループホームとして、状態把握と連携に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルに沿って対応できるように、急変時初期対応の勉強会に参加し、技術の習得に努めている。	急変や事故発生対応マニュアルは整備されている。そこには応急措置や転倒・転落発生時のフローチャートがあり、法人合同の共通研修を受けており、職員の異動があっても安心できる状況がある。窒息事故の想定で、餅が喉につまった方への対応等の勉強会に実践する力を身につけたいと参加している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜想定で避難訓練を行っている。地域の方にも避難訓練を見学していただき、運営推進会議で意見をお聴きしている。消防署通報専用電話機の通報訓練を毎月行っている。	災害時・緊急時マニュアルは整備されている。利用者一人ひとりの居室の入り口には、名前・顔写真等の明記された名札が下げられており、災害避難時救出者はその名札を必ず利用者に掛けるという形で訓練している。毎月伝言ダイヤルの操作を継続し、体験している。	備蓄は隣接同法人病院が一括で、行なっている。しかし、さまざまな災害が想定され、それらに対する対策が必要とされている。災害時すぐ利用する水や携帯食等の最小限の備蓄は必要と考えられる。今後も何時でも災害があるという危機感を持ち、備える仕組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを大切に考え、さりげない対応を心がけている。接遇の勉強会に参加し、失礼のない言葉遣いなどについて学んでいる。各利用者の記録や重要書類は事務所内で管理している。	プライバシーのマニュアルがあり、研修は行なわれている。管理者は、「職員のみなさんへ」という言葉で、「目配り・気配り・心配り」と細やかな喚起を促すメッセージを発信している。地域回覧の写真や面会簿の記入等、目の触れない部分での配慮と管理を行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や食事・買い物・室内環境など、細かに希望をお聴きし、出来る限り対応している。ご利用者が自分の思いや希望を話しやすいよう、ゆっくり傾聴している。職員側で決めて押しつけないで、利用者が自分で決められるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課はあるが、一人ひとりの気持ちを尊重し、外出希望がある時は一緒に出かけるなど、その日やりたい事があるご利用者には、出来る限り希望に沿った個別の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は併設施設の床屋や訪問美容を利用している方が多いが、ご家族と一緒に行きつけの美容院に行かれる方もいる。毎日着る服をご利用者自身に選んでもらっている。外出や行事に背広ネクタイで参加される方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好や季節感が味わえる食事メニューにし、食事形態にも気をつけている。ご利用者と一緒にお買い物に行きたいおやつ等を選んでいただき、調理や片付けも一緒に行っている。	地域の方の協力があり、事業所周りの畑には野菜が植えられており、日々の献立等に生かされている。、利用者は買い物に出かけていく事を楽しみにしている。提供されていた昼食は味よし、量よく、五穀米ご飯だが、お粥・パンとその状況に合わせた支援が行なわれていた。「おいしい」と和やかな雰囲気を醸しだし、食後の口腔ケアやモップ拭きなど、それぞれが自然な形でご自分の役割に参加されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日分の水分量を記録し、状態に合わせて摂取しやすい工夫をしている。栄養バランスを考えた献立を作り、食事形態については、リハビリ職や栄養士に相談している。管理栄養士から月に2回検食をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人で上手に出来ない方には、見守りや介助をし、入れ歯は毎日消毒している。年1回歯科検診を受け、希望時は歯科受診している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ介助が必要な方には、排泄チェック表をつけて排泄状況を把握し、時間を見ながら声掛けをしてトイレで排泄できるようにしている。その日の状態に合わせた介助を行っている。	各自の居室には、トイレがあり、ほかに廊下のコーナー毎に、共用のトイレもある。毎日職員の手で、居室トイレも綺麗に清掃され臭いが無く清潔が保たれている。利用者は、その時々を使い易い方を選び、排泄している。またリハビリパンツ使用者もおられ、さりげない職員の誘導の言葉かけでトイレでの排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトかヤクルトを摂取している。オリゴ糖を入れた飲み物を飲んでもらったり、体操や散歩で体を動かす機会を作ったりするなど、便秘解消の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の希望をお聴きして、ゆっくり入ってもらっている。お湯の温度調整や入浴剤を使うなどして気持ちよく入れるよう工夫している。入浴しない日は下着交換や足浴を行うなど、清潔保持に努めている。	入浴は連日で入られる方もおられるが、だいたい週2回、10:30~16:00のお昼の時間を除き、無理のない形で支援されている。また、一人ひとりの曜日・時間の希望やタイミングに合わせて入浴も可能となっている。入浴拒否の方には、前入浴日をみながら声かけし、足浴や着替えの支援を行なうなど個々の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には散歩したり、日中作業や活動をしていただき、夜間良眠できるように支援している。快適な睡眠環境になるように室温調整を行い、危険な状況が無いか巡視している。眠れないときは、無理に寝させるような対応はせず、一緒に過ごすなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに処方薬を綴じ、いつでも処方内容を確認できるようにしている。薬箱に薬の形態と数を表記し、仕分けた薬は二人以上で確認している。内服がちゃんとできているか、飲み込むまで見守りしている。薬については薬剤師に相談したり、症状の変化があった時は、すぐ看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて役割を持って頂き、作業後は感謝の気持ちをお伝えしている。調理や日常の家事・園芸作業などが、その方の楽しみや役割になるよう支援している。買い物や外出の機会を作り、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・外出などの希望がある時は、職員が付き添って個別に出かけている。ドライブや外食の行事で遠出する事もある。小学生との交流会や地域のお祭りに呼んでいただき参加している。ご家族には出来る範囲で外出の協力をお願いしている。	日々の散歩途中に同法人病院の売店で、好みのおやつ購入や希望によるドライブ、外食などを利用者は楽しみにしている。個別の外出を大切に対応しており、地域の行事参加や作品の出展など、また、自宅の敷地内にあるお地蔵様に編み物を自分で用意し、季節に合わせて替えるための外出など、家族や地域の方の協力を得ての支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が預かり金を管理しているが、買い物時には自分で支払いできるように支援している。自分でいくらか所持し、売店で買い物をされる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話があるので、自由に電話をかける事ができる。希望があれば職員が電話をかける手伝いをしている。ご家族や友人に手紙や年賀状を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けの共有スペースは広々としていて、明るく開放感が感じられる。花壇や畑で育てた季節の花を飾ったり、ご利用者と一緒に作った作品を飾ったりしている。畑で野菜を栽培して、季節を感じられるようにしている。ご利用者の好みの音楽を流したり、リラククスできるような空間作りをしている。	食堂やレクレーションの場所でもあるホールは、天井が高く明るく大きな窓から、周囲の山や畑・家並み・町のビルディング等が見る角度で景色が広がる解放感を利用者もお気に入りの場所である。また、畳コーナーがあり、椅子や、ソファなど居室ばかりでなく一人になれる場所も設けられている。食事の献立表の文字の大きさ、車椅子や少し背が曲りがちな利用者の丁度良い高さなど、よく配慮され、工夫されている。	利用者の通路の壁側に、いろいろな用具が積み重ねられた状態で置かれていた。職員側の使い易さも大切だが、やはりこれらの場所は利用者一人ひとりにとっての大切な空間であり、安心出来る場所の提供が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやたたみスペースがあり、いつでもご利用者自身が好きな場所で過ごせるよう見守っている。自由に本やアルバムを見たり趣味を楽しんだりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が安全でかつ使いやすいように家具を配置し、快適に過ごせるよう工夫をしている。好みの物やなじみの物を持ってきてもらったり、自分の作品やご家族との写真を掲示するなどして居心地が良く過ごせるようにしている。	居室は窓が大きく部屋が明るい。居室ごとに洗面やトイレが完備しており、利用者それぞれが、家族との思い出の写真や自分の制作物を飾っている。収納も充分とれる構造であり、利用者毎の整理がされており、居心地良く過ごせるように配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに必要な目印をつけたり、家具の配置を工夫したりして、安全に移動できるよう環境整備に努めている。		